

## マンズリー

# サンス・トーク(58)

2013.9.1

木村 讚

### 千曲川にあこがれています

数年前、千曲川の流れを佐久平から小諸へと辿り、その少し下流の海野宿を訪ねた。そして先月、私は海野宿のやや下の小布施から千曲川沿いに新潟県の塩沢石打まで走行して、千曲が信濃川と名が変わるのを始めて知りました。私は、千曲川には憧れの気持ちを強くもっていたのですが、その割にこの川の全体像にはとても疎かったのです。

### 千曲川本流の川筋

この川はわが国最長の川、甲斐、武蔵、信濃三国の境に甲武信岳(2475m)が聳えており、その山懐の川上村に千曲の源流があって全長367キロ、上高地からの水や谷川岳からの流れも集めて、末は新潟市で日本海に注いでいる。

川上村を発した流れは、浅間山の南西で佐久平に出る。小諸はこの一角にあり、それを更に下ると上田盆地にでて、それから牛に引かれて善光寺平、長野市は県庁所在地。信玄、謙信の合戦で有名な川中島も長野市近郊にあるが、大きな国道が走っており、古戦場跡という交差点があったりして雑駁な感じがする。それから、小布施は小さいが落ち着いた古里で栗が有名。あと、飯山から野沢菜で知られる野沢温泉を経て、長野県が終わり、新潟県にはいって、この川は信濃川に名が変わるのでした。

### 千曲川のスケッチ

私が、千曲川に憧れを抱くようになった最も大きな原因は、島崎藤村の詩、文に感化されたところにあります。高校生時代、彼の詩を気に入って、誦んでいたのです。藤村は、小諸で教鞭を取り、数々の詩で有名ですが、「破戒」などの小説や、「千曲川のスケッチ」という散文を発表して、明治・大正期の文壇に大きな足跡を残されたのです。

今回、小諸の城址から千曲川を見下ろした写真をもとに、水彩のスケッチを試みました。

小諸城址の西は崖になって千曲川に落ち込んでおり、展望台があって川を見下ろしている。



3年前の秋、ここから千曲川を眺めたのです。ダムのできがあって上流からの流れを堰きとめ、取水しているようです。画面の奥が上流、両岸に学校、民家などが逆光に光っていました。

城跡には、藤村記念館があって、彼の叙情がほのかに薫っているのです。



千曲川旅情の歌

島崎藤村

昨日またかくてありけり 今日もまたかくてありなむ  
この命なにを齷齪 明日をのみ思いわずらふ

いくたびか栄枯の夢の 消え残る谷に下りて  
河波のいざよふ見れば 砂まじり水巻き帰る

嗚呼古城なにをか語り 岸の波なにをか答ふ  
過ぎし世を静かに思へ 百年もきのふのごとし

千曲川柳霞みて 春浅く水流れたり  
ただひとり岩をめぐりて この岸に愁を繋ぐ